



## みどりの 女神が行く!

ミス日本みどりの女神  
こばやし ゆうき  
小林 優希

先日は全国森林組合連合会と農林中央金庫が共催している「森林組合トップセミナー：森林再生基金事業発表会」のオンライン講演会の事前収録が行われ、司会進行役として参加してまいりました。

この発表会では、国内の荒廃した民有林を再生し、森林の多面的機能を持続的に発揮させる事業や活動への助成金である、農中森力基金<sup>もろちから</sup>を利用した取り組みの結果が報告され、北は北海道の鶴居村森林組合から南は鹿児島県森林組合連合会まで、全国各地から9つの組合が集いました。

### 課題解決には 農中森力基金が重要と改めて認識

聴講したお話の一つに、愛媛県大洲市森林組合の発表がありました。今回の事業対象地となった場所は、針葉樹と広葉樹が隣接した未整備森林。取り組み内容として他の地域同様、未整備林の作業道の開拓が挙げられました。しかし、大洲市森林組合が、農中森力基金<sup>もろちから</sup>を利用して実施した取り組みは、それだけではなかったのです。

大洲市森林組合は「クヌギ原木の大径化」という課題を抱えています。かつてはクヌギの立木売買が盛んに行われていて、原木椎茸の取扱量は県下1位だったとか。しかし山林所有者や椎茸生産者の



▲大径木化したクヌギ林 (提供：大洲市森林組合)

高齢化に伴い、クヌギ原木が大径化してしまっているのだそうです。

そのような課題を解決するために、農中森力基金<sup>もろちから</sup>を活用して、広葉樹林区域の施業後の選定や原木の用途別のエリア分け、大径化したクヌギなどの広葉樹資源の循環利用に向けてクヌギを植栽するなど、様々な取り組みを試されていました。

最後に事業の成果を発表されていた時、「農中森力基金<sup>もろちから</sup>がなければ赤字だった」というお言葉がとても印象的でした。農中森力基金<sup>もろちから</sup>は、ただ課題解決をするための助成金ではなく、各森林組合がなかなか試せない施策へ踏み出すことを後押しする基金なのだと感じたからです。

11月頃に発表会の様子が公開されるそうです。各地で課題は尽きないことと思いますが、ぜひこの発表会を参考にしていただければ嬉しい限りです。

### 木材を使用した

### 公共施設の模型に触れ感動

プライベートでは、東京国立近代美術館で行われていた「隈研吾展」新しい公共性をつくるためのネコの5原則」へ。国産の木材を用いたデザインで設計され



▲2年前に2018ミス日本みどりの女神 竹川智世さんが足を運んでいました！



▲「CLT PARK HARUMI」の模型

た新国立競技場や高輪ゲートウェイ駅の模型などが展示されており、木材の持つぬくもりが生きるようにと計算し尽くされた建築の数々に圧倒されました。また、昨年の秋頃まで仮設建築物として設置されていた「CLT PARK HARUMI」という、国産CLTをアピールしていた展示施設の模型が見られ、とても嬉しかったです。現在は岡山県にあるようなので、一度足を運んで見てみたいです！